



平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年1月28日

上場会社名 株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ 上場取引所 東証第一部、大証第一部、福証
コード番号 8354 (URL <http://www.fukuoka-fg.com/>)

代表者 取締役会長兼社長 谷 正 明 TEL (092) 723-2502

問合せ先責任者 執行役員経営企画部長 吉 田 泰 彦

(百万円未満切捨て)

本開示資料に記載する数値は、監査法人による監査を受けておりません。

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績(平成19年4月2日～平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (％表示は対前年同四半期増減率)

	経常収益	経常利益	四半期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %
20年3月期第3四半期	197,492 (-)	39,232 (-)	21,694 (-)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	27 25	- -

(注)当社は、平成19年4月2日設立のため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	11,613,859	600,976	4.6	624 81

(注)連結自己資本比率(第二基準)は、確定次第別途開示いたします。

2. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月2日～平成20年3月31日)

平成19年11月20日発表の業績予想に変更はございません。

3. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

〔新規 1社 (社名 株式会社 親和銀行) 除外 - 社〕

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

〔(注)詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。〕

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は予想値と異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当社は、平成19年4月2日に株式会社福岡銀行と株式会社熊本ファミリー銀行の共同株式移転により設立されました。また、同年9月28日に株式会社親和銀行の第三者割当増資を引き受け、新たに同行が当社グループに加わりました。

当社グループは、広域展開型地域金融グループとして、グループ一体の経営戦略を展開し、広範なネットワークによる充実したサービスを展開してまいります。また、経営資源を有効に活用したビジネスモデルの共有により、経営統合によるグループシナジー（相乗）効果を早期に実現してまいります。

当第3四半期は、親和銀行の完全子会社化を機に刷新した「第二次中期経営計画」（計画期間2007年10月～2010年3月）諸施策を積極的に実行し、以下のとおりとなりました。

連結経常収益は、貸出金利息等資金運用収益および役務収益の拡大に努めた結果、1,974億9千2百万円となりました。連結経常費用は、お客様サービス向上に向けた店舗改装等の設備投資の増加及び株式等減損損失の計上により、1,582億5千9百万円となりました。その結果、連結経常利益は、392億3千2百万円、連結四半期純利益は、216億9千4百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（1）預金・譲渡性預金

預金の期末残高は、9兆9,394億円、譲渡性預金の期末残高は、4,160億円となりました。

（2）貸出金

貸出金の期末残高は、地元企業を中心とした新規取引の開拓や総合取引の拡大に努め、また個人のお客様の住宅ローンをはじめとしたニーズにも積極的にお応えいたしました結果、8兆126億円となりました。

（3）有価証券

有価証券の期末残高は、安全性と収益性の両面に留意して投資の多様化を図りました結果、2兆4,068億円となりました。なお、有価証券の大部分を占める「その他有価証券」の評価差益は、424億円となりました。

（4）資産運用商品

お客様の多様化する資産運用ニーズにお応えいたしました結果、個人預かり資産残高は、1兆3,528億円（投資信託4,693億円・個人年金保険3,109億円・外貨預金331億円・公共債5,396億円）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成19年11月20日発表の業績予想に変更はありません。

4. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 1社 株式会社 親和銀行

株式取得により平成19年9月28日から株式会社親和銀行を連結子会社としております。

（2）会計処理の方法における簡便な方法の採用

当社は、中間（連結）財務諸表等の作成基準をベースとしつつ、以下のとおり投資者等の利害関係者の判断を大きく誤らない範囲で一定の簡便な手続を採用しております。

【簡便な手続の内容】

貸倒引当金につきましては、12月末時点の債務者格付けに基づく対象残高に、子銀行の中間会計期間（平成19年4月1日～平成19年9月30日）で使用したデフォルト率等あるいは、貸倒実績率等を適用して算出しております。

当第3四半期における税金費用につきましては、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は四半期連結損益計算書「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。

（3）最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当ありません。

５．四半期連結財務諸表

(１) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前年同四半期末(A) (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末(B) (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減 (B) - (A)		(参考)前期末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金額	増減率	金 額
(資産の部)					
現金預け金		530,790			
コールローン及び買入手形		97,624			
買入金銭債権		173,835			
特定取引資産		10,157			
金銭の信託		3,556			
有価証券		2,406,881			
貸出金		8,012,661			
外国為替		5,585			
その他資産		126,296			
有形固定資産		181,641			
無形固定資産		190,345			
繰延税金資産		56,116			
支払承諾見返		88,095			
貸倒引当金		269,670			
投資損失引当金		58			
資産の部合計		11,613,859			
(負債の部)					
預金		9,939,496			
譲渡性預金		416,002			
コールマネー及び売渡手形		7,374			
債券貸借取引受入担保金		65,789			
特定取引負債		0			
借入金		190,735			
外国為替		244			
社債		137,039			
その他負債		122,061			
退職給付引当金		10,026			
利息返還損失引当金		1,173			
睡眠預金払戻損失引当金		1,529			
その他の偶発損失引当金		0			
再評価に係る繰延税金負債		32,997			
負ののれん		318			
支払承諾		88,095			
負債の部合計		11,012,883			
(純資産の部)					
資本金		124,799			
資本剰余金		104,699			
利益剰余金		245,922			
自己株式		2,367			
(株主資本合計)		(473,053)			
その他有価証券評価差額金		26,231			
繰延ヘッジ損益		1,468			
土地再評価差額金		46,561			
(評価・換算差額等合計)		(71,324)			
少数株主持分		56,598			
純資産の部合計		600,976			
負債及び純資産の部合計		11,613,859			

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当社は平成19年4月2日設立のため、前年同四半期末及び前期末の計数は記載しておりません。

(2)四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前年同四半期(A) (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期(B) (平成20年3月期 第3四半期)	増 減 (B) - (A)		(参考) 前期 平成19年3月期
	金 額	金 額	金額	増減率	金 額
経常収益		197,492			
資金運用収益		144,866			
(うち貸出金利息)		(111,258)			
(うち有価証券利息配当金)		(29,081)			
役務取引等収益		30,972			
特定取引収益		386			
その他業務収益		13,457			
その他経常収益		7,809			
経常費用		158,259			
資金調達費用		35,629			
(うち預金利息)		(17,248)			
役務取引等費用		10,736			
特定取引費用		0			
その他業務費用		10,065			
営業経費		81,510			
その他経常費用		20,317			
経常利益		39,232			
特別利益		1,378			
特別損失		2,446			
税金等調整前四半期純利益		38,165			
法人税、住民税及び事業税		15,703			
法人税等調整額		-			
少数株主利益		767			
四半期純利益		21,694			

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当社は、平成19年4月2日設立のため、前年同四半期及び前期の計数は記載しておりません。

(3) 四半期連結株主資本等変動計算書

当四半期（自 平成19年4月2日 至 平成19年12月31日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株 主 資 本 合 計
平成19年3月31日残高	79,890	58,165	231,025	10,758	358,322
四 半 期 連 結 会 計 期 間 中 の 変 動 額					
株式移転による増減	20,109	43,060		31,781	31,387
新株の発行	24,799	29,666			54,465
剰余金の配当			7,190		7,190
四半期純利益			21,694		21,694
自己株式の取得				177	177
自己株式の処分		5,359		11,013	16,372
自己株式の消却		31,551		31,551	-
土地再評価差額金の取崩			393		393
連結子会社の増加				2,215	2,215
株主資本以外の項目の 当四半期連結会計期間 中の変動額（純額）					
四 半 期 連 結 会 計 期 間 中 の 変 動 額 合 計	44,908	46,533	14,897	8,391	114,730
平成19年12月31日残高	124,799	104,699	245,922	2,367	473,053

（単位：百万円）

	評 価 ・ 換 算 差 額 等				少 数 株 主 分 持	純 資 産 計 合
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	45,912	77	46,955	92,790	51,393	502,506
四 半 期 連 結 会 計 期 間 中 の 変 動 額						
株式移転による増減						31,387
新株の発行						54,465
剰余金の配当						7,190
四半期純利益						21,694
自己株式の取得						177
自己株式の処分						16,372
自己株式の消却						-
土地再評価差額金の取崩						393
連結子会社の増加						2,215
株主資本以外の項目の 当四半期連結会計期間 中の変動額（純額）	19,681	1,390	393	21,465	5,205	16,260
四 半 期 連 結 会 計 期 間 中 の 変 動 額 合 計	19,681	1,390	393	21,465	5,205	98,470
平成19年12月31日残高	26,231	1,468	46,561	71,324	56,598	600,976

（注）1．記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2．当社は、平成19年4月2日設立のため、前年同四半期及び前期の計数は記載しておりません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

連結会社は、銀行業以外に保証業及び債権管理回収業等を営んでおりますが、それらの事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載しておりません。

【所在地別セグメント情報】

全セグメントの経常収益の合計額に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

平成19年度第3四半期 決算説明資料

～補足説明～

- 平成19年9月28日に株式会社親和銀行の株式を取得したため、株式会社親和銀行（及びその関連会社）は、当社の連結子会社となりました。（みなし取得日平成19年9月30日）
株式会社親和銀行連結の損益については、当下半期（平成19年10月1日以降）からFFG連結決算に反映されます。
（株式会社親和銀行連結の19年度上期の損益は、FFG連結決算には反映されません。）
- 本説明資料では、各計数の定義を次のとおりとしております。

【FFG連結】	:ふくおかフィナンシャルグループ連結の計数
【3行グループ合算】	:福岡銀行グループ、熊本ファミリー銀行グループ、親和銀行グループの連結計数を単純合算した計数
【3行合算】	:福岡銀行、熊本ファミリー銀行、親和銀行の単体計数を単純合算した計数
【3行合算+分割子会社】	:【3行合算】と親和コーポレート・パートナーズを単純合算した計数
【福岡銀行連結】	:福岡銀行グループ連結の計数
【熊本ファミリー銀行連結】	:熊本ファミリー銀行グループ連結の計数
【親和銀行連結】	:親和銀行グループ連結の計数
【福岡銀行単体】	:福岡銀行単体の計数
【熊本ファミリー銀行単体】	:熊本ファミリー銀行単体の計数
【親和銀行単体】	:親和銀行単体の計数
【親和銀行単体+分割子会社】	:【親和銀行単体】と親和コーポレート・パートナーズを単純合算した計数
- 平成19年12月末の自己資本比率につきましては、現在算定中であり、確定次第別途開示いたします。

あなたのいちばんに。



ふくおかフィナンシャルグループ

 福岡銀行

 熊本ファミリー銀行

 親和銀行

1. 損益の状況

親和銀行の損益は、当下半期の損益からFFG連結損益に反映されます。

FFG連結

参考

3行グループ合算

(単位:億円)

	平成19年度 第3四半期 (9ヶ月)	平成19年度 第3四半期					
		前年比		福岡連結 + 熊本連結 (4月~12月)		親和連結 (10月~12月)	
経常収益【2,700】	1,975	2,000	249	1,857	257	144	7
業務粗利益	1,333	1,339	9	1,231	2	108	12
資金利益	1,092	1,092	9	1,003	21	89	12
役務取引等利益	202	203	2	187	1	16	1
特定取引利益	4	4	13	4	13	-	-
その他業務利益	34	40	8	38	6	2	2
うち国債等債券損益	16	15	15	15	11	0	4
経費(除く臨時処理分)	810	785	36	714	40	71	4
一般貸倒引当金繰入額	50	50	9	10	31	40	40
業務純益	573	603	37	527	68	76	31
コア業務純益	538	568	31	532	26	36	5
臨時損益等	180	360	370	307	342	53	29
不良債権処理額	155	155	558	105	529	51	28
特定海外債権引当勘定繰入額	1	1	1	1	1	-	-
(信用コスト + + - -)	(92)	(92)	(578)	(95)	(498)	(3)	(80)
株式等関係損益	18	196	196	195	197	1	1
その他臨時損益等	8	9	9	8	9	1	0
経常利益【570】	392	243	333	220	273	23	60
特別損益	11	10	17	14	4	25	23
うち貸倒引当金純取崩益	-	-	-	-	-	-	-
うち償却債権取立益	13	13	11	0	0	13	11
税引前四半期純利益	382	254	351	206	269	48	82
四半期純利益【310】	217	155	382	105	299	49	82

(注1) 記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

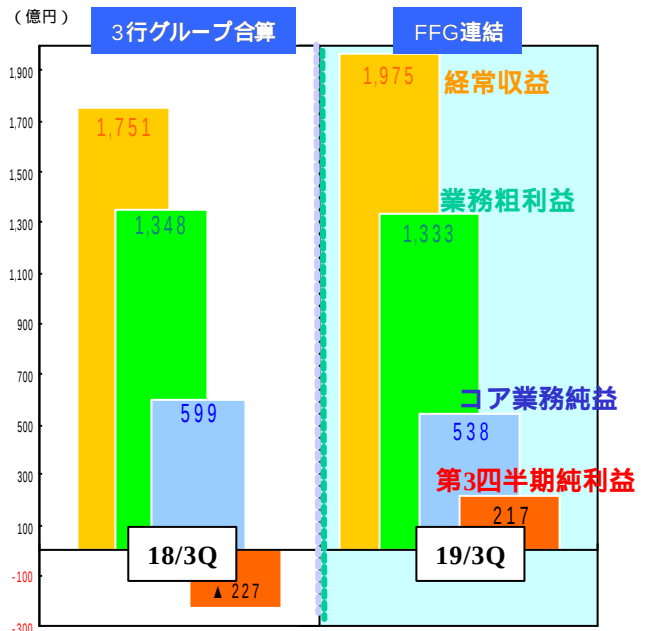
(注2) コア業務純益(538億円) = 業務純益(573億円) + 一般貸倒引当金繰入額(50億円) - 国債等債券損益(16億円)

(注3) 【 】は、平成19年11月20日に発表したFFG連結の平成19年度通期業績予想。

■ 業績サマリー

■ 損益の推移

経常収益 1,975億円 年度計画進捗率 73.1% 経常収益は、貸出金利息等資金運用収益の拡大及び役務取引等収益の拡大に努めた結果、1,975億円となりました。	
コア業務純益 538億円 コア業務純益は、お客様サービス向上に向けた店舗改装等の設備投資の増加及び経営統合にかかる諸経費の計上等により538億円となりました。	
経常利益 392億円 年度計画進捗率 68.8% 経常利益は、信用コスト(前年同期の3行グループ合算と比較すると大幅に減少)及び株式等関係損失の計上等により392億円となりました。	
四半期純利益 217億円 年度計画進捗率 70.0% 四半期純利益は、以上より217億円となりました。	



(注1) 「3行グループ合算」計数における株式等関係損益▲196億円には、子銀行が保有していたFFG株式の売却損▲181億円(福岡銀行▲180億円、熊本ファミリー銀行▲1億円)が計上されております。なお、子銀行が計上した当売却損は、FFG連結決算上資本取引の対象となり損益が認識されないため、FFG連結損益に与える影響はありません。

(注2) 親和銀行及びその関連会社は、平成19年9月28日にFFGの連結対象子会社となりました。(みなし取得日平成19年9月30日)そのため、親和銀行連結の損益につきましては、当下半期からFFG連結損益に反映されます。(親和銀行連結の19年度上期の損益は、FFG連結損益に反映されません。)

福岡銀行単体

(単位: 億円)

	平成19年度 第3四半期(9ヶ月)	平成18年度 第3四半期(9ヶ月)	前年同期比	(参考) 19年3月期
経常収益 【2,010】	1,555	1,298	257	1,778
業務粗利益	972	963	9	1,302
資金利益	811	781	30	1,052
役務取引等利益	151	157	6	215
特定取引利益	4	17	13	24
その他業務利益	7	8	1	11
うち国債等債券損益	15	2	13	2
うち外為売買損益	8	6	2	9
経費(除く臨時処理分)	555	533	22	705
一般貸倒引当金繰入額	8	-	8	23
業務純益	426	430	4	621
コア業務純益 【625】	433	432	1	600
臨時損益等	220	4	216	58
不良債権処理額	37	1	36	45
特定海外債権引当勘定繰入額	1	-	1	0
(信用コスト + + -)	(28)	(22)	(50)	(33)
株式等関係損益	181	10	191	11
その他臨時損益等	2	13	11	24
経常利益 【400】	206	426	220	563
特別損益	13	14	27	15
うち貸倒引当金純取崩益	-	23	23	-
税引前四半期純利益	193	441	248	548
四半期純利益 【230】	115	263	148	330

(注1) 記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

(注2) コア業務純益(433億円) = 業務純益(426億円) + 一般貸倒引当金繰入額(8億円) - 国債等債券損益(15億円)

(注3) 【 】は、平成19年11月20日に発表した平成19年度通期の業績予想。

■ 業績サマリー

経常収益 1,555億円

- 経常収益は、貸出金利息等資金運用収益の拡大により、前年同期比+257億円の1,555億円となりました。

コア業務純益 433億円

- コア業務純益は、貸出金利息の順調な伸びによる資金利益の増加が経費の増加をカバーし、前年同期比+1億円の433億円となりました。

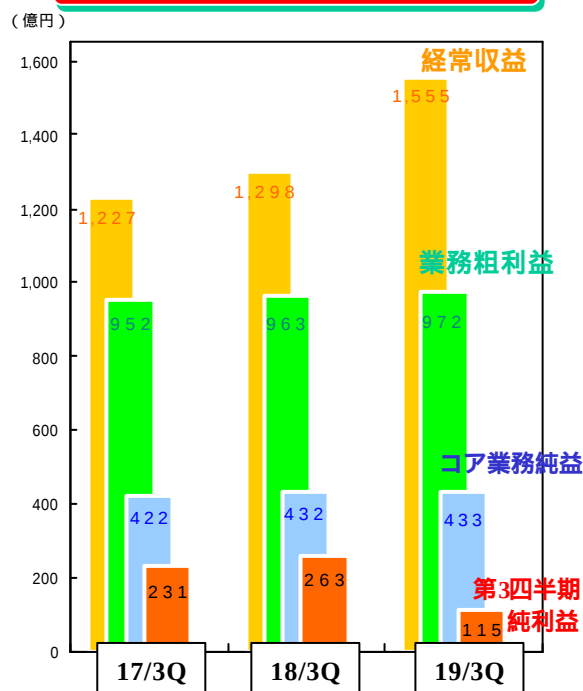
経常利益 206億円

- 経常利益は、福岡銀行が持つFFG株式(普通株式・第二種優先株式)売却にかかる売却損を計上したため、前年同期比▲220億円の206億円となりました。

四半期純利益 115億円

- 四半期純利益は、以上より前年同期比▲148億円の115億円となりました。

■ 損益の推移(3Q実績)



熊本ファミリー銀行単体

(単位: 億円)

	平成19年度 第3四半期(9ヶ月)	平成18年度 第3四半期(9ヶ月)	前年同期比	(参考) 19年3月期
経常収益 【360】	266	256	10	351
業務粗利益	196	208	12	264
資金利益	181	194	13	255
役務取引等利益	17	14	3	19
その他業務利益	3	0	3	11
うち国債等債券損益	0	2	2	13
うち外為売買損益	1	0	1	0
経費(除く臨時処理分)	136	124	12	170
一般貸倒引当金繰入額	4	58	62	67
業務純益	64	26	38	26
コア業務純益 【81】	60	86	26	106
臨時損益等	71	550	479	644
不良債権処理額	49	536	487	619
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-	-	-
(信用コスト + + - -)	(45)	(594)	(549)	(686)
株式等関係損益	13	8	5	15
その他臨時損益等	9	7	2	11
経常利益 【15】	7	524	517	618
特別損益	1	0	1	1
うち貸倒引当金純取崩益	-	-	-	-
うち償却債権取立益	0	0	0	0
税引前四半期純利益	9	525	516	619
四半期純利益 【5】	17	475	458	570

(注1) 記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

(注2) コア業務純益(60億円) = 業務純益(64億円) + 一般貸倒引当金繰入額(4億円) - 国債等債券損益(0億円)

(注3) 【 】は、平成19年11月20日に発表した平成19年度通期の業績予想。

■ 業績サマリー

経常収益 266億円

- 経常収益は、資産運用商品の販売増加による役務収益の拡大等により、前年同期比+10億円の266億円となりました。

コア業務純益 60億円

- コア業務純益は、調達コストの増加による資金利益の減少や会計基準厳格化による仕組みローン評価損の計上(その他業務利益)、経費の増加により前年同期比▲26億円の60億円となりました。

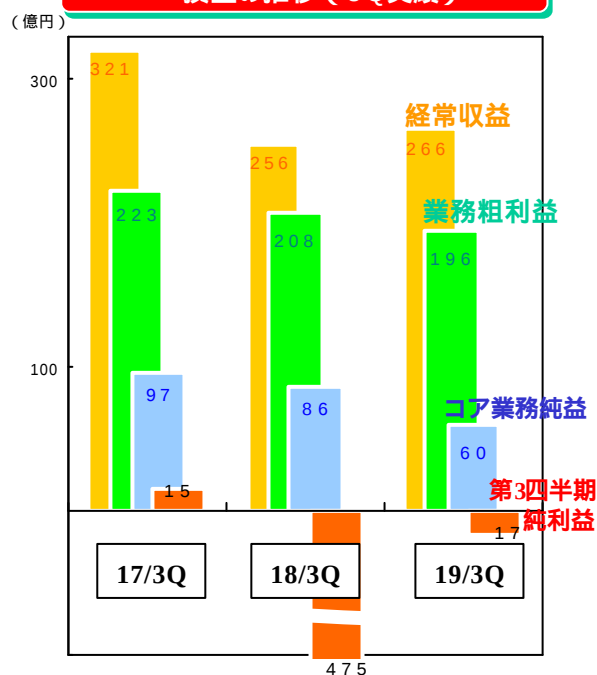
経常利益 ▲7億円

- 経常利益は、上記要因によるコア業務純益の減少に加え、株式等関係損失▲13億円を計上した結果、▲7億円となりました。(前年同期比では信用コストの減少により+517億円)

四半期純利益 ▲17億円

- 四半期純利益は、繰延税金資産取崩し▲8億円計上等により、▲17億円となりました。なお、第3四半期(10月~12月)の純利益は3億円となっております。

■ 損益の推移(3Q実績)



親和銀行単体

親和銀行の損益は、当下半期の損益からFFG連結損益に反映されます。

(単位: 億円)

	うち10月～12月 (3ヶ月)	平成19年度 第3四半期 (9ヶ月)	平成18年度 第3四半期 (9ヶ月)	前年同期比	(参考) 19年3月期
経常収益 【550】	140	416	466	50	729
業務粗利益	104	303	374	71	555
資金利益	89	274	317	43	437
役務取引等利益	13	44	42	2	58
その他業務利益	2	14	15	29	60
うち国債等債券損益	0	2	14	16	59
うち外為売買損益	0	1	0	1	0
経費(除く臨時処理分)	69	210	229	19	303
一般貸倒引当金繰入額	37	306	91	397	67
業務純益	72	213	236	449	318
コア業務純益 【128】	34	95	131	36	193
臨時損益等	52	690	604	86	893
不良債権処理額	49	655	602	53	916
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-	-	-	-
(信用コスト + + - -)	(0)	(940)	(507)	(433)	(843)
株式等関係損益	1	12	2	14	19
その他臨時損益等	1	23	3	20	4
経常利益 【 890】	20	903	368	535	575
特別損益	24	34	2	36	5
うち貸倒引当金純取崩益	-	-	-	-	-
うち償却債権取立益	13	21	4	17	7
税引前四半期純利益	44	937	366	571	570
四半期純利益 【 990】	47	959	448	511	677

(注1) 記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

(注2) コア業務純益(95億円) = 業務純益(213億円) + 一般貸倒引当金繰入額(306億円) - 国債等債券損益(2億円)

(注3) 【 】は、平成19年11月20日に発表した平成19年度通期の業績予想。

■業績サマリー

【10月～12月 サマリー】

四半期(10月～12月)純利益 47億円

- 19年上期に不良債権との訣別のため、大幅に貸倒引当金の積増しを行いました。その結果、当第3四半期(10月～12月)の信用コストは▲0億円となり、四半期純利益(10月～12月)は、47億円となりました。

【4月～12月 サマリー】

経常収益 416億円

- 経常収益は、貸出金利息、有価証券利息等資金運用収益の減少を主因に、前年同期比▲50億円の416億円となりました。

コア業務純益 95億円

- コア業務純益は、資金利益の低下による業務粗利益の減少を経費削減にてカバーできず、前年同期比▲36億円の95億円となりました。

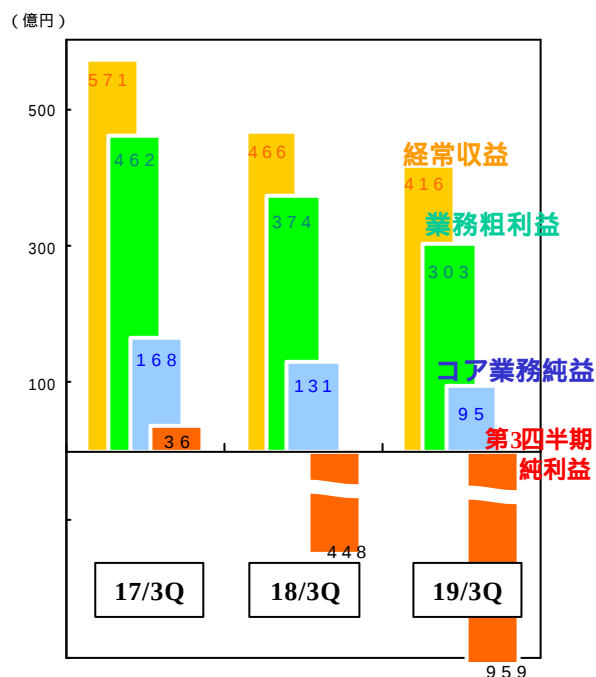
経常利益 ▲903億円

- 経常利益は、不良債権問題からの訣別のため、大幅に貸倒引当金の積増しを行った結果、前年同期比▲535億円の▲903億円となりました。

四半期(4月～12月)純利益 ▲959億円

- 四半期純利益は、固定資産減損損失等の計上により、前年同期比▲511億円の▲959億円となりました。

■損益の推移(3Q実績)

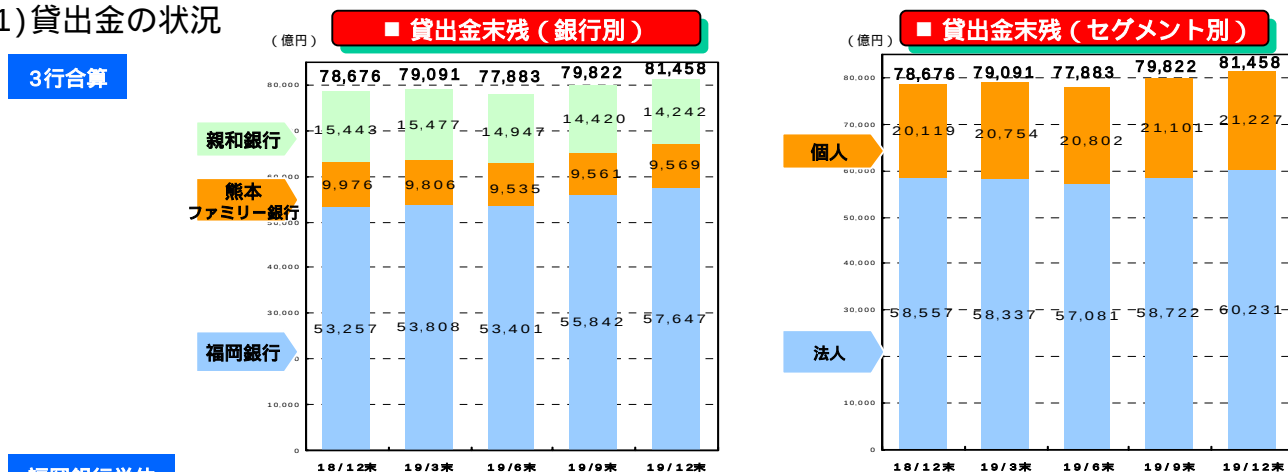


3Q実績は、4～12月までの累計を記載しております。

2. 資産・負債等の状況

(株)ふくおかフィナンシャルグループ(8354)平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

(1) 貸出金の状況



福岡銀行単体

- 総貸出金は、19/9末比+1,805億円増加し、57,647億円（前年同期比+4,390億円、年率+8.2%）となりました。
- 部門別では、個人部門が19/9末比+32億円（前年同期比+721億円、年率+5.0%）、法人部門は同+1,773億円（同+3,668億円、年率+9.4%）となりました。

熊本ファミリー銀行単体

- 総貸出金は、19/9末比+8億円増加し、9,569億円（前年同期比▲407億円、年率▲4.1%）となりました。
- 部門別では、個人部門が19/9末比+30億円（前年同期比+107億円、年率+3.8%）、法人部門は同▲22億円（同▲513億円、年率▲7.2%）となりました。

親和銀行単体

- 総貸出金は、不良債権のオフバランス化等に伴う残高減少により、19/9末比▲178億円減少し、14,242億円（前年同期比▲1,201億円、年率▲7.8%）となりました。
- 部門別では、個人部門が19/9末比+64億円（前年同期比+280億円、年率+9.4%）、法人部門は同▲242億円（同▲1,481億円、年率▲11.9%）となりました。

						(単位:億円)			
3行合算	19年12月末 (年率: %)					19年9月末	19年3月末	18年12月末	
						19年9月末	19年3月末	18年12月末	
	総貸出金	(3.5%)	81,458	1,636	2,367	2,782	79,822	79,091	78,676
	個人部門	(5.5%)	21,227	126	473	1,108	21,101	20,754	20,119
	法人部門	(2.9%)	60,231	1,509	1,894	1,674	58,722	58,337	58,557
	ローン残高	(6.9%)	19,680	188	619	1,270	19,492	19,061	18,410
	うち住宅ローン	(8.7%)	17,800	236	747	1,421	17,564	17,053	16,379
中小企業等貸出金比率	-	74.4%	2.4%	2.4%	2.1%	76.8%	76.8%	76.5%	
福岡銀行単体	総貸出金	(8.2%)	57,647	1,805	3,839	4,390	55,842	53,808	53,257
	個人部門	(5.0%)	15,029	32	240	721	14,997	14,789	14,308
	法人部門	(9.4%)	42,618	1,773	3,599	3,668	40,845	39,019	38,950
	福岡県内貸出金	(7.5%)	45,351	1,087	2,329	3,161	44,264	43,022	42,190
	ローン残高	(5.2%)	14,769	57	268	734	14,712	14,501	14,035
	うち住宅ローン	(6.1%)	13,502	82	314	776	13,420	13,188	12,726
	中小企業等貸出金比率	-	70.5%	3.4%	2.7%	1.9%	73.9%	73.2%	72.4%
熊本ファミリー銀行単体	総貸出金	(4.1%)	9,569	8	237	407	9,561	9,806	9,976
	個人部門	(3.8%)	2,935	30	56	107	2,905	2,879	2,828
	法人部門	(7.2%)	6,634	22	293	513	6,656	6,927	7,147
	熊本県内貸出金	(6.6%)	8,064	605	551	503	7,459	7,513	7,561
	ローン残高	(7.4%)	2,460	41	106	170	2,419	2,354	2,290
	うち住宅ローン	(10.7%)	2,227	51	141	215	2,176	2,086	2,012
	中小企業等貸出金比率	-	90.5%	0.3%	0.1%	0.3%	90.2%	90.4%	90.2%
親和銀行単体	総貸出金	(7.8%)	14,242	178	1,235	1,201	14,420	15,477	15,443
	個人部門	(9.4%)	3,263	64	177	280	3,199	3,086	2,983
	法人部門	(11.9%)	10,979	242	1,412	1,481	11,221	12,391	12,460
	長崎県内貸出金	(2.8%)	8,989	0	587	259	8,989	9,576	9,248
	ローン残高	(17.6%)	2,450	88	245	366	2,362	2,205	2,084
	うち住宅ローン	(26.2%)	2,071	104	292	430	1,967	1,779	1,641
	中小企業等貸出金比率	-	79.1%	0.0%	1.5%	2.7%	79.1%	80.6%	81.8%

(注1) 貸出金には、福岡銀行のFFG向け貸出金（19年12月末・19年9月末 1,200億円）及び熊本ファミリー銀行向け貸出金（19年12月末・19年9月末・19年3月末・18年12月末 100億円）を含んでおります。

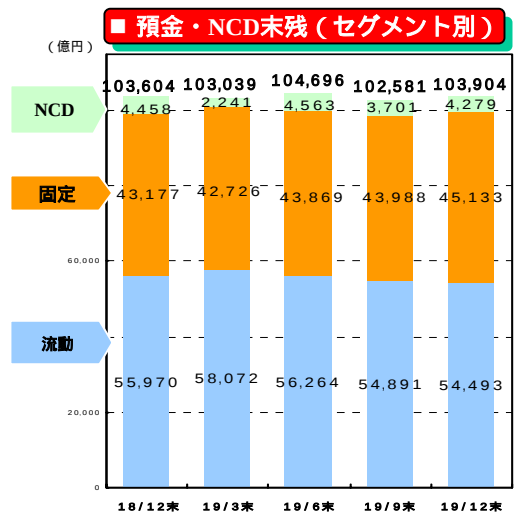
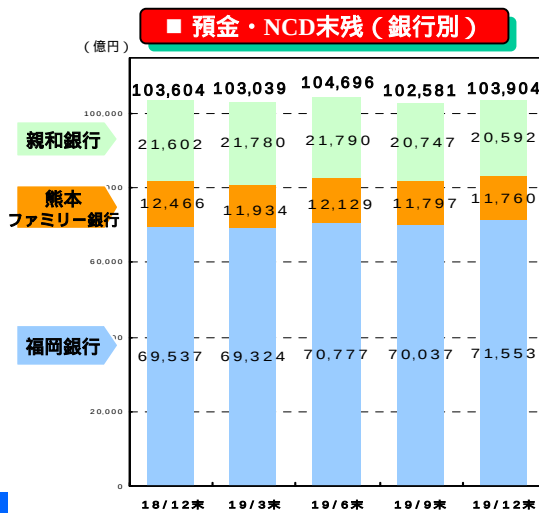
(注2) 中小企業等貸出金比率は、特別国際金融取引助定を除き算出しております。また19年9月末の中小企業等貸出金比率は上記FFG向け貸出金を中小企業等残高に含み算出しておりますが、19年12月末時点では、FFGの従業員数が300名を超過し大企業に分類されるため、中小企業等残高には含んでおりません。

(注3) 親和銀行の個人部門・法人部門のセグメント分類については、過去の計数を含め、分類基準を福岡銀行および熊本ファミリー銀行の基準に変更し集計しております。

(2) 預金の状況

(株)ふくおかフィナンシャルグループ(8354)平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

3行合算



福岡銀行単体

- 総資金(預金+NCD)は、19/9末比+1,516億円増加し、71,553億円(前年同期比+2,016億円、年率+2.9%)となりました。
- 部門別では、個人預金は、19/9末比+1,585億円(前年同期比+1,707億円、年率+3.6%)、法人預金は同▲643億円(同▲26億円、年率▲0.1%)となりました。

熊本ファミリー銀行単体

- 総資金は、19/9末比▲37億円減少し、11,760億円(前年同期比▲706億円、年率▲5.7%)となりました。
- 部門別では、個人預金は、19/9末比+1億円(前年同期比+32億円、年率+0.4%)、法人預金は同▲38億円(同▲208億円、年率▲6.8%)となりました。

親和銀行単体

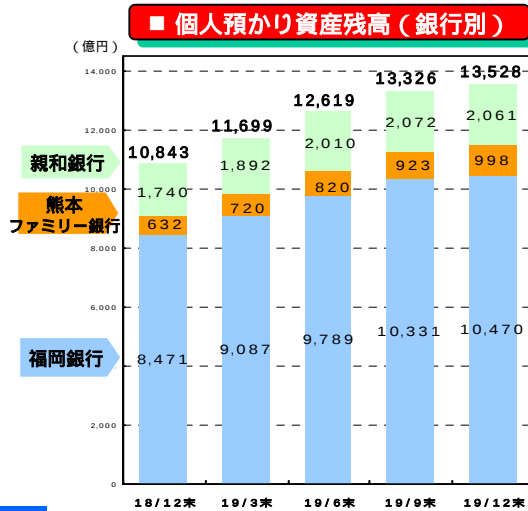
- 総資金は、19/9末比▲155億円減少し、20,592億円(前年比▲1,010億円、年率▲4.7%)となりました。
- 部門別では、個人預金は、19/9末比+136億円(前年同期比▲359億円、年率▲2.4%)、法人預金は同▲297億円(同▲669億円、年率▲11.0%)となりました。

(単位:億円)

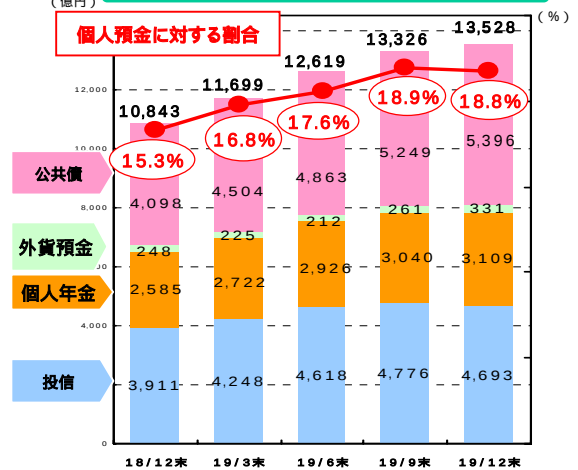
3行合算	19年12月末 (年率:%)					19年9月末	19年3月末	18年12月末		
			19/9末比	19/3末比	18/12末比					
	個人預金	(2.0%)	72,135	1,724	2,337	1,381	70,411	69,798	70,754	
	法人預金	(3.2%)	27,491	977	3,509	902	28,468	31,000	28,393	
	合計	(0.5%)	99,625	745	1,172	478	98,880	100,797	99,147	
	流動性	(2.6%)	54,493	398	3,579	1,477	54,891	58,072	55,970	
	固定性	(4.5%)	45,133	1,145	2,407	1,956	43,988	42,726	43,177	
総資金(預金+NCD)		(0.3%)	103,904	1,323	865	300	102,581	103,039	103,604	
福岡銀行単体	個人預金	(3.6%)	48,649	1,585	2,460	1,707	47,064	46,189	46,942	
	法人預金	(0.1%)	19,224	643	2,374	26	19,867	21,598	19,250	
	合計	(2.5%)	67,873	942	86	1,681	66,931	67,787	66,192	
	流動性	(1.3%)	41,216	297	2,435	530	41,513	43,651	41,746	
	固定性	(9.0%)	26,657	1,239	2,521	2,211	25,418	24,136	24,446	
	総資金(預金+NCD)		(2.9%)	71,553	1,516	2,229	2,016	70,037	69,324	69,537
	福岡県内預金		(2.8%)	63,752	885	296	1,749	62,867	63,456	62,003
熊本ファミリー銀行単体	個人預金	(0.4%)	8,899	1	94	32	8,898	8,805	8,867	
	法人預金	(6.8%)	2,861	38	108	208	2,899	2,969	3,069	
	合計	(1.5%)	11,760	37	14	176	11,797	11,774	11,936	
	流動性	(0.3%)	4,237	132	35	14	4,105	4,202	4,223	
	固定性	(2.5%)	7,523	168	50	190	7,691	7,573	7,713	
	総資金(預金+NCD)		(5.7%)	11,760	37	174	706	11,797	11,934	12,466
	熊本県内預金		(0.2%)	10,565	40	131	21	10,525	10,434	10,586
親和銀行単体	個人預金	(2.4%)	14,586	136	218	359	14,450	14,804	14,945	
	法人預金	(11.0%)	5,405	297	1,027	669	5,702	6,432	6,074	
	合計	(4.9%)	19,992	160	1,244	1,027	20,152	21,236	21,019	
	流動性	(9.6%)	9,040	233	1,178	962	9,273	10,218	10,002	
	固定性	(0.6%)	10,952	73	65	65	10,879	11,017	11,017	
	総資金(預金+NCD)		(4.7%)	20,592	155	1,188	1,010	20,747	21,780	21,602
	長崎県内預金		(3.1%)	15,376	28	259	499	15,348	15,635	15,875

(3)資産運用商品の状況

3行合算



■ 個人預かり資産残高（セグメント別）



福岡銀行単体

- 個人預かり資産（投資信託、個人年金、外貨預金、公共債）の残高は、19/9末比+139億円増加し、10,470億円（前年同期比+1,999億円、年率+23.6%）となりました。

熊本ファミリー銀行単体

- 個人預かり資産の残高は、19/9末比+75億円増加し、998億円（前年同期比+366億円、年率+57.9%）となりました。

親和銀行単体

- 個人預かり資産の残高は、19/9末比▲11億円減少し、2,061億円（前年同期比+321億円、年率+18.5%）となりました。

(単位:億円)

個人預かり資産残高		19年12月末				
		(年率：％)		19/9末比	19/3末比	18/12末比
3 行 合 算	投資信託	(20.0%)	4,693	83	445	782
	個人年金保険	(20.3%)	3,109	69	387	524
	外貨預金	(33.3%)	331	70	106	83
	公共債	(31.7%)	5,396	147	892	1,298
	合　　計	(24.8%)	13,528	202	1,829	2,685
	個人預金に対する割合	—	18.8%	0.1%	2.0%	3.5%
福岡銀行単体	投資信託	(16.4%)	3,446	75	291	486
	個人年金保険	(16.2%)	2,206	24	226	308
	外貨預金	(29.7%)	315	58	94	72
	公共債	(33.6%)	4,502	131	771	1,132
	合　　計	(23.6%)	10,470	139	1,383	1,999
	個人預金に対する割合	—	21.5%	0.5%	1.8%	3.5%
熊本ファミリー銀行単体	投資信託	(42.3%)	416	8	90	123
	個人年金保険	(79.0%)	404	42	136	178
	外貨預金	(330.3%)	14	11	11	11
	公共債	(48.5%)	164	13	41	54
	合　　計	(57.9%)	998	75	278	366
	個人預金に対する割合	—	11.2%	0.8%	3.0%	4.1%
親和銀行単体	投資信託	(26.0%)	830	18	63	171
	個人年金保険	(8.1%)	499	3	25	38
	外貨預金	(7.5%)	2	0	1	0
	公共債	(18.2%)	730	3	81	112
	合　　計	(18.5%)	2,061	11	169	321
	個人預金に対する割合	—	14.1%	0.2%	1.3%	2.5%

19年9月末	19年3月末	18年12月末
4,776	4,248	3,911
3,040	2,722	2,585
261	225	248
5,249	4,504	4,098
13,326	11,699	10,843
18.9%	16.8%	15.3%
3,521	3,155	2,960
2,182	1,980	1,898
257	221	243
4,371	3,731	3,370
10,331	9,087	8,471
22.0%	19.7%	18.0%
408	326	293
362	268	226
3	3	3
151	123	110
923	720	632
10.4%	8.2%	7.1%
848	767	659
496	474	461
2	1	2
727	649	618
2,072	1,892	1,740
14.3%	12.8%	11.6%

(4)時価のある有価証券の評価差額金

(株)ふくおかフィナンシャルグループ(8354)平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

FFG連結

- 時価のある有価証券残高は、19/9末比▲1,342億円減少し、23,197億円となりました。
- 有価証券評価差額(含み損益)は、19/9末比▲72億円減少し、424億円となりました。

福岡銀行連結

- 時価のある有価証券残高は、19/9末比▲656億円減少し、16,071億円となりました。
- 有価証券評価差額(含み損益)は、19/9末比▲42億円減少し、470億円となりました。

熊本ファミリー銀行連結

- 時価のある有価証券残高は、19/9末比+12億円増加し、2,277億円となりました。
- 有価証券評価差額(含み損益)は、19/9末比+1億円増加し、▲10億円となりました。

親和銀行連結

- 時価のある有価証券残高は、19/9末比▲700億円減少し、4,875億円となりました。
- 有価証券評価差額(含み損益)は、19/9末比▲60億円減少し、▲12億円となりました。

(単位: 億円)

		19年12月末								18年12月末
		時 価	19/9末比	評価差額	うち評価益	うち評価損	19/9末比	19/3 末比	18/12末比	評価差額
F F G 連結	その他有価証券	23,197	1,342	424	671	247	72			
	株式	1,575	219	473	566	92	130			
	債券	15,279	1,439	30	51	81	56			
	国債	8,614	1,862	47	28	75	38			
	地方債	544	129	2	2	0	3			
	社債	6,121	551	16	21	5	17			
	その他	6,343	316	19	55	74	2			
福岡銀行連結	その他有価証券	16,071	656	470	635	165	42	260	200	670
	株式	1,143	77	543	561	18	80	255	236	779
	債券	8,841	1,071	61	19	80	28	71	97	158
	国債	3,770	1,865	72	3	75	16	41	50	122
	地方債	324	53	1	1	0	2	5	7	6
	社債	4,747	847	10	15	5	11	26	40	30
	その他	6,088	492	11	55	66	10	76	60	49
熊本ファミリー銀行連結	その他有価証券	2,277	12	10	15	25	1	16	16	6
	株式	140	48	12	5	17	11	31	35	23
	債券	2,136	61	2	9	8	12	15	20	18
	国債	1,485	48	0	6	6	8	11	14	14
	地方債	8	1	0	0	0	0	0	0	0
	社債	643	12	2	3	1	3	4	6	4
	その他	1	0	0	0	-	0	0	1	1
親和銀行連結	その他有価証券	4,875	700	12	57	69	60	71	81	69
	株式	313	95	18	45	28	71	75	60	78
	債券	4,308	428	15	11	26	16	20	26	41
	国債	3,359	45	17	8	24	15	19	25	42
	地方債	211	77	0	1	1	0	0	0	0
	社債	737	307	2	3	1	1	1	1	1
	その他	254	177	15	0	15	5	15	47	32

(注) 上記の平成19年12月末及び平成18年12月末の「評価差額」は、各月末時点の帳簿価額(償却原価法適用後、減損処理後)と時価との差額を計上しております。(平成19年9月・3月末と同じベースで計上。)なお、満期保有目的の債券に係る含み損益は、以下のとおりであります。(単位:億円)

		19年12月末								18年12月末
満期保有目的の債券		帳簿価額	19/9末比	含み損益	うち評価益	うち評価損	19/9末比	19/3末比	18/12末比	含み損益
F F G 連 結		60	0	0	-	0	0			
福 岡 銀 行 連 結		60	0	0	-	0	0	0	0	0
熊 本 フ ァ ミ リ ー 銀 行 連 結		-	-	-	-	-	-	-	8	8
親 和 銀 行 連 結		-	-	-	-	-	-	-	-	-

3. 金融再生法ベースの 카테고리による開示

(株)ふくおかフィナンシャルグループ(8354)平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

3行合算 + 分割子会社

【部分直接償却後】

■ 開示債権残高（各子銀行の部分直接償却後の残高を合算しております。）

単位: 億円

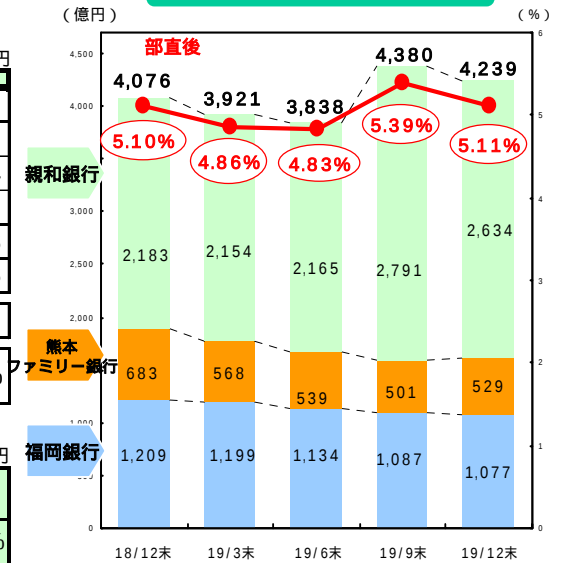
	19年12月末	19/9末比	19/3末比	18/12末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	739	64	63	1
危険債権	1,945	137	113	324
要管理債権	1,555	68	494	489
合計（金融再生法開示債権）	4,239	141	318	163
正常債権	78,662	1,787	1,958	2,833
総与信残高	82,902	1,647	2,277	2,997
総与信に占める金融再生法開示債権	5.11%	0.28%	0.25%	0.01%

■ 保全率【19年12月末】（各子銀行の部分直接償却後の計数を合算しております。）

単位: 億円

	債権額	保全等カバー	引当金	担保・保証等	保全率
金融再生法開示債権	4,239	3,350	1,842	1,508	79.0%

■ 開示不良債権残高（銀行別）



福岡銀行単体

- 金融再生法開示債権残高は、19/9末比+3億円増加し、1,234億円（前年同期比▲113億円）となりました。総与信に占める開示債権の割合（不良債権比率）は、同▲0.06%減少し、2.10%（同▲0.40%）となりました。（部分直接償却前）

【参考】

部分直接償却を実施した場合の開示債権残高は、19/9末比▲10億円減少し、1,077億円（前年同期比▲132億円）となります。また不良債権比率は、同▲0.07%減少し、1.84%（同▲0.41%）となります。

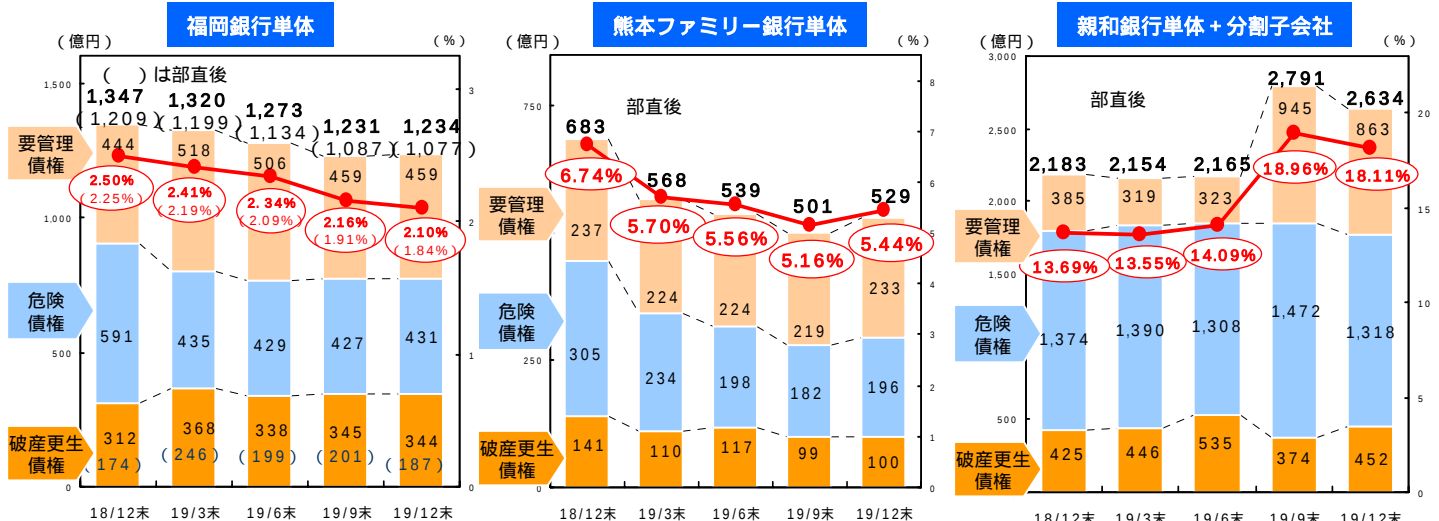
熊本ファミリー銀行単体

- 開示債権残高は、19/9末比+28億円増加し、529億円（前年同期比▲154億円）となりました。（部分直接償却後）
- また、不良債権比率は、同+0.28%増加し、5.44%（同▲1.30%）となりました。

親和銀行単体 + 分割子会社

- 開示債権残高は、19/9末比▲157億円減少し、2,634億円（前年同期比+451億円）となりました。（部分直接償却後）
- また、不良債権比率は、同▲0.85%減少し、18.11%（同+4.42%）となりました。

■ 開示不良債権残高・比率



(注) 上記グラフの平成19年12月末の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリにより分類しております。また、各開示区分の金額は、平成19年9月末から同12月末までの倒産・不渡り等の客観的な事実及び各子銀行の行内格付の変動を反映させた同12月末時点での債務者格付・自己査定基準に基づく残高を記載しております。

【債務者区分との関係】

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権・・・「実質破綻先」及び「破綻先」の債権
- 危険債権・・・「破綻懸念先」の債権
- 要管理債権・・・要注先のうち、債権毎の区分で「3ヶ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権

なお、熊本ファミリー銀行及び親和銀行（分割子会社含む）の開示債権額は、部分直接償却後の金額を記載しております。福岡銀行は部分直接償却を実施していませんが、参考として（ ）内に部分直接償却を実施した場合の金額を記載しております。

4. デリバティブ取引

FFG連結

(1) 金利関連取引

(単位:億円)

区分	種 類	19年12月末			19年9月末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
取引所	金利先物	982	2	2	1,096	1	1
店頭	金利スワップ	4,700	12	12	4,339	11	11
	金利スワップ・ション	337	0	3	549	0	5
	キャップ	757	0	1	778	0	1
	フロア	87	0	0	93	0	0
合 計			11	14		10	15

(注) ヘッジ会計適用分を除く

(2) 通貨関連取引

(単位:億円)

区分	種 類	19年12月末			19年9月末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
店頭	通貨スワップ	8,332	16	16	7,866	16	16
	為替予約	357	1	1	543	2	2
	通貨オプション	443	0	0	308	0	0
合 計			17	17		18	18

(注) ヘッジ会計適用分を除く

(3) 債券関連取引

(単位:億円)

区分	種 類	19年12月末			19年9月末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
取引所	債券先物	3	0	0	3	0	0
	債券先物オプション	10	0	0	-	-	-
合 計			0	0		0	0

(注) ヘッジ会計適用分を除く

(4) クレジットデリバティブ取引

(単位:億円)

区分	種 類	19年12月末			19年9月末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・スワップ	85	0	0	50	0	0
合 計			0	0		0	0

(注) ヘッジ会計適用分を除く

(5) 複合金融商品関連取引

(単位:億円)

区分	種 類	19年12月末			19年9月末		
		契約額等	時 価	評価損益	契約額等	時 価	評価損益
市場取引 以外の取引	複合金融商品(貸出金)	315	18	18	315	21	21
合 計			18	18		21	21

(注) ヘッジ会計適用分を除く

(6) 株式関連取引、商品関連取引、その他

該当ございません。

5. 自己資本比率について

平成19年12月末時点の自己資本比率につきましては、現在算定中であり、確定次第開示いたします。